

精神科医の思うこと③④

『お金の話』

松村 奈奈子

親族に自営業が多かったので夏のお盆に親族が集まると、大人達がなんやら経営やお金の話をよくしていました。税金や倒産や自己破産の話なんかも、小さいころから聞いていた言葉でした。子供の頃の夏の思い出のひとつは、ちょっと「生臭い」お金の話です。そのせいか、子供の頃から新聞の経済欄に興味があったり、ちょっと大人になってからは「なにわ金融道」というヤミ金屋さんの漫画が好きでした。それは自営業の人や普通の主婦が「ヤミ金」にお金を借りに行き、ヤミ金屋の主人公とやりとりしながらもまれていく漫画で、なるほどこんな世界があるのかと勉強になりました。これって、精神科の治療場面で、ちょっと役に立つこともあったし、「お金」の事では思うこともあるので、今回のテーマは「お金の話」

「眠れない日が続いて」と高齢の母親に連れられて受診した中年女性。「何かストレスがありましたか？」と聞くと、1 年ほど前からたくさん買い物して、利息も返せないほど借金をしてしまったといいます。やっと母親に相談して、とりあえず精神科を受診したようです。「ヤミ金でなければ、自己破産などいろいろな方法ありますよ」と話すと「選挙権とかなくなるんですよ？」と高齢の母親が聞いてきますが、いえいえそんなコワいものではないです。自己破産のメリット・デメリットを軽く説明して、専門家への相談を勧めました。とりあえずお薬は出さずに、経過を見る事にしました。数週間後、再び母子でわざわざ菓子折りを持って受診され「司法書士さんに相談した」「ほっとして、眠れて仕事もできるようになった」と笑顔で話します。「情報をお伝えしただけですが」と話し、もちろん菓子折りは「上手くいったお祝いとして、お二人で食べてください」と持って帰ってもらいました。

もひとつお金の話、50代の女性が「眠れない」と受診されました。「何かストレスが？」と聞くと、小さな会社を経営する夫が急死したと話します。ワンマンな夫に苦労したと言いますが、残された会社の経営は順調で、息子と二人でやっていく覚悟との事でした。悩みは夫に前妻と子供がいて、その子供に遺産の相続権がある事だと言います。会社も夫の名義の資産の一部

なので、どうやったら会社の経営を息子と二人で続けられるか、前妻の子どもに理解してもらえるか、日々悩んでいると言います。多額のお金を前妻の息子に取られてしまっただけでは、会社の経営ができなくなってしまう。会社の税理士などにも相談したが、何も提案がなかったといいます。うーん、それは確かに悩ましい。「先生どう思う？」と聞かれ、一緒に金額の事など解決策を話し合うと、すっきりしたのか薬の処方を希望されずに帰りました。その数週間後、女性はさわやかな表情で診察室に表れ「上手くいったし、先生に報告しようと思って」「聞いて欲しいねん」と話します。前妻の子どもの所に息子と話し合っただけで決めた金額を現金で持参し、「これで遺産を放棄してほしい」と2人で頭を下げたと言います。考えていた額より少額だったので「上手にやったねー」と感心すると「上手い事やったで」と女性はニヤリとします。賢い女性で、わざわざ報告に来てくれたおかげで、こちらも勉強になりました。

この2つのケース、いずれも「眠れない」と初診で話しますが、お金に関するトラブルにより悩みがメインの問題で、解決方法を一緒に考えることで、お薬なしで治療は終了しています。私はできるだけお薬無しで、患者さんが良くなればいいなあと思っています。「ストレス」があるなら、どうやったら「ストレス」を減らせるのかを考えるのが、精神科のメインの治療ではないかとも考えています。もちろん、避けられない「ストレス」で薬物療法をすることも多いですが、治療者のちょっとした生きるための知恵や情報で改善するなら、それがベストだなあと思います。お盆に大人の「お金の話」を聞いて育って、お金の知恵が役立ててよかった話です。

まったく違う次元ですが、「お金」の問題が背景にあるケースあります。

金銭的な問題で、夫からのDVに耐えているうつ状態の母親は、中学生・高校生の子供がいました。「進学にお金がいるし、今は離婚できない」と母親は話します。話してみると、ちゃんと子供たちを大切に思い、頑張っているいい母親であるのが伝わります。「子供たちに、両親の今後や離婚についてどう思っているのか、ちゃんと聞いてみたらどうですか？」とアドバイスしました。「えっ、子供に聞くんですか？」と母親は戸惑います。「子供もいろいろ考えていると思いますよ」と返しました。翌週、母親はすっきりとした表情で診察室に入り「驚いたことに、子供たちはお金のことはいいから、我慢しないで離婚したらいいって言ってくれたんです」「もっと早く、子供たちに相談したらよかった」と涙を流されました。

ちゃんと子供の事を思っていると、子供は思ってくれている人の事を思いやれるんだと私は思います。その後、離婚し「お金」はちょっぴり厳しいですが、子供たちと笑顔のある生活がはじまり、精神科の通院は終わりました。

実は精神科医は上手くいってない家族だけでなく、特別児童扶養手当の申請など障害者に対する診断書を書く仕事があって、精神的に健康な家族とお話しする機会も多いです。そんな場面では「真面目に働いてるけど、こんな収入でここまでしか子供にしてやれんのよ」と笑って子供たちに話し、子供たちは「仕方ないなあ、公立高校頑張るわ」と笑って現状を受け入れる、仲のいい母子家庭をたくさん見てきました。みんなが笑顔でいる家族からは、笑顔の秘訣をたくさん教わりました。

一方、母子家庭で「子供にお金のせいで苦労をかけたくない」と、朝晩といっぱい働いて、笑顔が途切れた母親を「お母さん、あんまり家におらへん」「そんな無理して働かんでも」「仕事でイヤな事あったら、むっちゃ僕らに怒鳴る」と非難している子供たちもたくさん見てきました。たいがい、ちょっとワルな事をしちゃってる子で、児童相談所でお会いします。

精神科ってよろず相談所的な側面あるなーと日々思っています。よろずにいろんな知識があると、患者さんに寄り添って問題が解決する方向に導きやすいのでは？なーんて思います。ちょっぴり好奇心旺盛なので、いろんな知識を患者さんから教えてもらうのは好きだし、教えてもらった事を誰かに伝えたりしながら、よろずの知恵をためています。もちろん、そのよろずの知恵は、診察でいかされています。特に「お金」の問題は生活に直結するので、お金のトラブルの解決方法は、とても役に立っています。

そして、この仕事をしていて繰り返し気づかされるのは、「お金」は 1 番大事ではないという事。笑顔の絶えない健康的な家族は、お互いを思いやり、ちゃんとそれを言葉にして、「お金」の問題を含めて、隠し事の少ない家族です。お互いをちゃんと思いやれる事が本当に大事ななあと思います。

なので、お互いを思いやれずに、大人が思い込みで行動したり、大人が無理をし続けて子供にガマンを強いると、家族の誰もが笑顔の無い状態となってしまいます。いやー、「お金」の事で、傷つけあっている家族を見るのはツライです。

ただ、「お金」に翻弄される大人をみていると、大人自身が「お金」より大事なものに気づけずに育ったり、テレビや SNS で発信される、なんだか「お金をたくさん持つこと大事」的なメッセージに流され、判断が上手くできなくなった大人なのかなあとも思います。そんな大人はたくさんいて、だから毎日のように、「お金」のトラブルがニュースになっていますよね。ほーんと、「お金」、難しいなあと思います。